【モータースポーツコラム】

筆者：秦　直之

新型コロナウィルスによって、日本ばかりか世界中が大変なことになっています。この原稿を書いている4月上旬時点、これからどうなっていくか分かりません。JAFの要請によって、少なくても4月中は国内モータースポーツの全イベントが、中止もしくは延期となりました。私自身妄想は得意なのですが、すべて楽しいことだけであって、ここまでの状況は想像すらしていませんでした。

当初、この原稿依頼を受けた時、ビッグイベントばかりがモータースポーツじゃない、というテーマを考えていました。こと国内だけの話でいうと、スーパーGTやスーパーフォーミュラの開幕戦が延期になって、テストが無観客で行われる、という状況でしたから。でも、3月中、そういったイベント以外は開催されていたのです。もちろん、さまざまな感染予防対策をした上で。なので、レーシングカーを渇望している人に、ローカルイベントの観戦をお勧めするつもりでした。でも、現状では不可能になってしまいました。ですから、現在の困難な状況が収束してから…という前提に、少し改めさせていただきます。

皆さんはモータースポーツと言って、何をイメージするでしょうか？　大半の方がF1、WEC、スーパーGT、スーパーフォーミュラとか。あとラリーもありますね、でもWRCぐらいではないでしょうか？　それ以外にも存在することは理解されていても、あまりご存知ないのでは。今、挙げたカテゴリーは世界もしくは日本の最高峰ですが、「最高峰」というからには「裾野」もあるわけです。もちろん、その間もあります。

近年のスーパーGTを観戦された方なら、サポートレースとしてFIA-F4やポルシェのレース（ポルシェカレラカップジャパン：PCCJ）も開催されていたはず。まぁ、中にはピットウォークの行列に並んでいたり、トークショーなどを見たりで、気にも留めなかった方もいるかもしれませんが。でも、見てくれた方意外に楽しめたんじゃないですか？　FIA-F4でトップを争っていたドライバー、名前を絶対に覚えておきましょう。きっと数年後に最高峰カテゴリーを戦っているはず。PCCJもワンメイクレースとしては、トップレベルですからね。

ローカルイベントとは、そういったレースが組み合わされて開催されています。鈴鹿サーキットでしたら鈴鹿クラブマンレース、富士スピードウェイでしたら富士チャンピオンレース、と呼ばれるものです。サーキットごとにシリーズが組まれ、行われるレースは千差万別。ナンバーつきワンメイクレースから、逆にナンバーがなく足回りを固め、軽量化も許されるN1レース、入門用のフォーミュラまで非常にバラエティに富んでいます。

ただ、こういったローカルイベントって最近はいつやっているのか、どんなレースをやっているのかほとんど知られていません。以前でしたら、モータースポーツ専門誌でリザルトだけでなく写真やレポートもしっかり扱われていましたし、スケジュールも記載されていたのですが今ではさっぱり…。

その一方で、これだけネットやSNSが普及した現在は、サーキットやドライバー自身から発信される情報は豊富なので、調べれば得られるようにはなっているのですけどね。その意味においては、与えられるのではなく得る時代、なのかもしれません。

ローカルイベントを観戦するメリットは、なんといっても非常にリーズナブルであること。鈴鹿サーキットの場合、入園券で入れますから2,000円。富士スピードウェイなら1,100円！　別途駐車料金もかかりますが、いずれにしたってF1やスーパーGTとは比較になりません。ひとつ問題があるとすれば、誰が誰だか分からないこと！　サーキットによってはアナウンサーが情報を出してくれますが、中には毎回同じことしか言わないアナウンサーもいます（どこのサーキットとは言わないけれど）。

だけど、スーパーFJなどをはじめとする入門フォーミュラは、ステップアップが目標ですから（中にはホビーで楽しむジェントルマンもいますが）、先のFIA-F4ではないですが、「こりゃ、すごい！」と思ったドライバーの名前を覚えておくといいですよ。順調にステップアップしてくれたら、「あいつ、スーパーFJの頃から、俺は見続けていたんだぜ」とか自慢できます。

それと、レースに出てみたいけどどうしたらいいか分からない、という人もいるでしょう。そういう人ほど、ローカルイベントはオススメ。いる人に聞けばいいのですから。

パドックフリーであることが大半ですから、ピットの裏を除いて雰囲気のいいチームに、良きタイミングで質問しちゃいましょう。きっと親切に教えてくれますよ！　ナンバー付きワンメイクレースが安くできそうな気がするでしょうけど、ローカルイベントの古めのクルマで行われるレースなんて、すごくお手軽にできます。クルマ自体が安いし、もう仕上がっているわけですから。それと車検も税金も不要ですしね。

　とにかく、この困難な状況が収束したら、ぜひローカルイベントを観戦してください。「意外」って思えるほど、楽しめると思いますので。

（プロフィール）
秦　直之／1964年東京都出身
大学在学中の1983年よりモータースポーツ雑誌「オートテクニック」、「スピードマインド」（共に廃刊）の編集に携わり、1990年よりフリーランスに。以降、国内モータースポーツ全般の取材に取り組む。グラスルーツのカテゴリーにも注力しており、「スーパーFJを語らせたら右に出る者はいないが、左に並ぶ者もいない」のが悩みのタネ（笑）。